

SI:Student Instructor

スーツでビシッと!「SI:Student Instructor」の活動!!

歯学部歯学科 中川 理聡 (洗足学園中学高等学校出身)

富士吉田校舎で私が参加したSIの活動は、ロータリークラブの方で行う地域のゴミ拾い、保護者面談(年1回富士吉田校舎において対面実施)や公開講座の際の受付や誘導、こども食堂でのお手伝いなど多岐にわたります。SIはイベント前に都度募集されるので、友人と誘い合い一緒に参加していました。スーツでビシッとキメて臨む活動は一年生の代表になったような気持ちで背筋が伸びました。参加者の方に「ありがとう」と声をかけられ嬉しい達成感があったり、他学部に新たに友人ができたり、充実したとても貴重な経験となりました。

地域のゴミ拾いでは、富士吉田地域の様子を初めて知りました。少し腰に疲労感がありましたが、それも良い思い出です。公開講座のSIでは、椅子並べ等の会場作りや受講者の方への挨拶などのほか、講座を受講者と一緒に拝聴できます。貴重な講演会のお手伝いはとても有意義な経験です。こども食堂のお手伝いでは、子どもと保護者の方と話す機会が何度もあり、言葉選びの方法やスピード、トーンなどコミュニケーションに大切なことを実践的に学びました。

寮生活では外部の幅広い年代の方と関わる機会が少なくなるので、SIに積極的に参加しました。休みの日に行う大変さがありますが、友人と楽しみながら、自分の成長を感じた寮生活の一部です。私は2年生からも機会があれば参加したいと考えています。是非、楽しみながらご参加を!楽しい出会いや発見がもりだくさんです。



学生相談室

学生相談室を利用してくれた学生さんから寮生活へのプチエール

富士吉田校舎 学生相談室 カウンセラー 加藤 京, 坂本 美優

学学生相談室とはどんなところか。最近では「小中高にもスクールカウンセラーがいたよなあ、どんな相談でもできるところだよな」とごく自然に認識してもらえるようにもなってきました。それでも自分には特に縁はないと思われる場合もまだ多いかもしれません。果たしてそうなのでしょうか。



富士吉田キャンパスは、若い仲間同士のつながりががんばりあうようなマジカルな光景が日常ですが、光もあれば陰もあつてこそその全体であるように、学業や人間関係に悩む学生さんもいます。ある人の不適応状態はその人個人の資質による、と普通はとらえられがちですが、心理学のある分野では、個人の不適応状態もコミュニティー全体の性質がそこに反映されたものとしてとらえます。つまり、不適応状態に悩む個人が相談を経て変容していくプロセスは、その人個人のためだけでなく他の誰かや全体にとっても意味のあることなのです。

相談室を利用していていた学生さんから伝言を託されていました。一人で悩みを抱えなくてよい、あなたの悩みは他の人たちの宝物という例としてご紹介します。「華やかな寮生活になじめないと感じて悩むその入り口を怖がらなくていい。いつのまにか、なじめなかったのではなく、自分自身のなじみ方はこうだった、ということもある。よかったら次の代の学生さんにも伝えてください」とのことでした。

学生相談室は3号館1階。開室は月・火・木の16時半～20時半。貸出可能なマンガ本もあります。気軽にのぞきに來てください。



食育

吉田の食育?食行?(合言葉は食堂へGO)

食堂栄養士 天野・宮下

ご入学おめでとうございます。富士山の麓にある富士吉田キャンパスの桜は、東京の桜が葉桜となる頃に咲き始めます。今年も新入生の入寮に合わせて春が訪れ、新入生の皆さんは二度お花見を経験できるでしょう。

「♪～霊峰富士を仰ぎ見る 緑色こき松林 たのしき日々をうち集い 我等若人はげみあう～」これは富士吉田市の公立中学校の校歌の一節です。皆さんの学生生活もまさにこの通り、大自然の中で学部を越えて仲間をつくり、勉学に勤しみ切磋琢磨できるのが、ここ富士吉田キャンパスの魅力です。

食堂の人氣メニューは丼物、肉料理が圧倒的で、煮物など手間をかけたものよりも、単純に焼いたり揚げたりしたものを好む傾向にあります。魚を用いた和食は一部の学生には人氣がありません。逆に和食を好む学生も大勢います。「食育」という言葉を聞いたことがありますか?「食育」とは生きる上の基本であつて、知育・徳育・体育の基礎となるものであり、様々な経験を通じて『食』に関する知識と『食』を選択する力とを習得し、健全な食生活を実践することができる人間を育てることです。皆さんはすでに子供時代から「食育」の授業やいろいろな経験をしてきていると思われます。子供の頃は「好き嫌いをなく食べようね」とか「〇〇には体の調子を整える働きがあるから大事だよ」といったアドバイスを素直に聞き入れていたと思います。しかし大学生になった皆さんには、「嫌いなものは嫌い」「魚は骨が面倒くさい」「ギリギリまで寝ていたいので朝ご飯はいらない」となかなか聞き入れてもらえませんが「今さら『食育』?」、という声も聞こえてきそうなので、富士吉田での「食育」はまずは食堂へ行く「食行(しょくいく?)」から始めてみませんか?

食堂の食事は朝・昼・夕と3食きちんと食べることにによりバランスのとれた食生活が送れるよう地元食材の使用(地産地消)、行事食、和・洋・中華にエスニックや流行りのご当地メニュー、学生からのリクエストなどを考慮し、飽きがこない献立作りを心がけています。昔からの定番メニューのサンデイカレーも健在です(時々曜日が変わる時もあります)。部屋メン(寮の同室メンバー)が寝ていたら、起こして食堂へ連れてきてください。朝ごはんを食べる習慣もつき、午前中の授業も集中できるはずです。

特定の食品摂取によるアレルギー症状をもつ学生も年々増えています。自分の症状をまずは部屋メンに知らせてください。本人が気を付けていても、他人の何気ない行動が危険につながることもあります。また、食堂ではアレルギー申請した学生に代替品や除去したものを直接手渡しして、間違えないよう対策しています。その際はカウンターで順番通りお渡しできないこともあります。譲り合いてお願いします。

配膳の際、どこに茶碗や汁椀、おかずを置くのかわからない人はカウンターの掲示物を参考にしてください。食べ方のマナー(箸の使い方や食べる姿勢)なども、将来、自信をもって伝承していけるようになれるといいですね。

食堂内で不愉快なマナー違反をする学生を見かけた時には、食堂スタッフはどんなに注意していきます。これも私達にできる「食育」のひとつです。

「同じ釜の飯を食う」とは他人同士だが生活を共にし、苦楽を分かち合った親しい間柄のたとえでよく使われる言葉です。また、ある研究では同じ釜の飯を食べると脳内ホルモン物質が分泌され相手に対する不安や疑いの心を抑制し、信頼感を深めてくれる効果があるとも言われています。

富士吉田での全寮制共同生活は将来チーム医療を担う医療人となるための第一歩です。皆さんが目指している職業は自身が心身ともに健康でなくては務まりません。どのような環境下でも適応できる体づくりに大切な『食』について見直す良い機会になることを期待します。

編集後記

広報誌委員長 富士吉田教育部 教授 田中 周一

前号の編集後記でもふれましたが、多年にわたり編集委員長を務めてまいりました筆者は、今号の編集時点をもちまして定年退職を迎え、広報誌委員会を離れます。

次号からは新体制のもと、広報誌の全面リニューアルを予定しております。装丁も内容も一新となる次号にご期待ください。

「白樺・百合」を今後ともよろしく願ひいたします。



「桜舞う富士吉田キャンパス」富士吉田教育部校医／教授 木村 聡 撮影

新入生の皆さんを歓迎いたします

学校法人昭和大学 理事長 小口 勝司

新入生の皆さんご入学おめでとうございます。この富士吉田校舎での全寮制教育は医系総合大学である本学における特色であり、医学部、歯学部、薬学部、保健医療学部との4学部の学生が共同して衣食住をとものにします。共同生活を送ることで相手を思いやる心を育み、学部間交流を積極的に行い、意見交換の場としていただきたいと思います。将来を担う人間性豊かな医療人となることを念頭に切磋琢磨する皆さんの努力は必ず実を結び、自身の糧となります。この寮生活の経験がチーム医療の根底を学ぶよい機会となることを心より期待しております。

本学は創立者である上條秀介博士が掲げた「至誠一貫」の建学の精神のもと、社会に貢献する優れた医療人を育成してまいりました。昭和39年昭和大学富士吉田校舎を竣工して以来、この地に根づき平成27年には富士吉田市と地域の課題解決および活力ある個性豊かな地域社会の形成・発展に寄与することを目的とした「包括的連携協力に関する協定」を締結し友好的な関係を築いております。また、昨年6月には新男子寮「赤松寮」が竣工し、今年度は、学習環境の向上として、新カリキュラムの実践のため新実習棟の建設に着手する予定です。昭和大学は常に学生が幅広い視野を養い、医療人に成長していく歩みをサポートしています。

本法人は盤石な財政基盤のもと、常に最新の設備で最高の教育を提供して参ります。ご父母の皆様におかれましては、ご理解ご協力をいただき共にお子様を医療人として大きく成長していく姿を見守っていただきたく存じます。

最後になりましたが、富士吉田校舎の教職員、皆さんのご家族ならびに関係の皆様のご協力のもとに富士吉田校舎における新生活がスタートできますことを感謝申しあげてご挨拶とさせていただきます。

医療人への基礎作りの場：富士吉田キャンパス

昭和大学 学長 久光 正

昭和大学1年生の皆さん、富士吉田キャンパスによろこそ。皆さんは将来、医療に携わることで社会に貢献することをめざし、本学に入学しました。本学の特徴は医療人になる基礎作りを富士吉田で1年間の学部混合全寮生活を通して行うことです。医療は「ひと」に施すものです。それぞれの患者さんは異なる歴史、生活、習慣により築き上げた異なる人生を歩んでいます。これらの人々に対応するには皆さんがしっかりした医療人マインドをもたなくてはなりません。挨拶、礼儀、作法、思いやり、順法精神、対話力などの上に医療の知識や技術を積み上げていくのです。これらを身につけた上で、各職種が協力してチームワーク(チーム医療)を実践していくのです。

昭和46年、私も富士吉田で1年間を過ごしました。当時は医学部と薬学部の2学部でした。男子は8人部屋で両学部4名ずつ、2段ベッド4つの寝室と8つの机がある勉強部屋で寝食を共にしました。その時の1年間で私たちは精神的に大きく成長しました。そのきっかけは、友人達との対話でした。政治・恋愛・趣味、いろいろな話題について、深夜まで語り合ったことを覚えています。皆さんも、友人と大いに議論して心を鍛えてください。

Team Workについてこのような言葉があります。

Coming together is a beginning.

Keeping together is a progress.

Working together is a success.

富士吉田の1年は皆さんの医療人としての人生の貴重な第一歩です。

SUCCESSに向かって、大いに羽ばたいてください。

広報誌名称について

全寮制を特徴とする富士吉田校舎学生寮は「白樺寮(男子寮)」「百合寮(女子寮)」の二寮からスタートしました。「赤松寮」「すみれ寮」を加えて四寮となった現在も、白樺・百合という名称は受け継がれています。この名を冠した「白樺・百合」という広報誌の名称には、過去・現在・未来の学生たちが日ごとに成長をとげて前進しつつも、常に初心を忘れず、伝統を受け継いでくれることへの願ひが込められています。

講義

月曜日がもたらしたもの

保健医療学部看護学科 玉置 小麦（横浜翠陵高等学校出身）



特に印象に残っているのは医療倫理やハンセン病などを学ぶ「ヒューマニティ」という講義です。この講義では、話を聴くうちに感情移入して辛くなってしまうような内容もありました。しかし私は逆にそのような感情が生まれたことで、「他の人はどう思っているのだろう」という疑問から、医療倫理についてとても興味が湧き、グループメンバーや部屋メン（寮同室メンバー）と意見交換をするようになりました。

私は学部連携授業で初対面の人と会話をしたり、様々なグループディスカッションを行ったりしたおかげで、実家に帰った際に、今までは勝てなかった姉と対等にディベートをすることができました。これは人に何かを伝えるという能力が向上したからだと考えます。

楽しいこと、大変なこと、たくさんありましたが、ここで学んだことは日常的な学生生活に役立つだけでなく、医療職に就いた際にも必ず活きるものであると強く感じました。

改めて約8か月間、関わってくださった全ての方に感謝申し上げます。ありがとうございました。



学生会

素晴らしい学生会

医学部医学科 杉本 寛児（新潟県立新潟高等学校出身）

富士吉田校舎学生会は、一学年全員によって構成され、学問の自由と寮生活の充実を目的とする会です。この目的達成のために、全寮大会、中央委員会、代議員会、選挙管理委員会、クラブ代表者会、監査委員会、及び体育館管理運営委員会などが設置されています。それぞれがより良い学校生活を実現するために活動しています。

ここでは私が代表を務めていた中央委員会について紹介します。中央委員会は学生会の最高執行機関である代表機関です。適宜行われる合同委員会では 多くの学生役員、教員そして職員の方々が一堂に会して会議を行い、よりよい寮生活を送っていくための方法や、今後の学校行事のあり方について話し合います。合同委員会では主に学生が主体となって発表、話し合いなどを行い、学校内での重要な決定に関する議論を進めています。

これだけを読むとただ仕事が増えて大変なだけだと思われるかもしれませんが、決してそんなことはありません。一学年をまとめているという実感が湧いてとても充実感があり、学校に貢献できていると実感します。また、中央委員会というコミュニティに属することで、責任感のある素晴らしい仲間と出会うことができます。

上記のように富士吉田での寮生活は様々な代表機関、役員によって運営されています。役員となって働くことで得られる楽しさ、充実感はとても大きく、素晴らしい学生生活が保証されるでしょう。

富士吉田キャンパスでは毎週月曜日に学部連携授業が行われています。異なる学部の人達と一緒に授業を受け、様々な話題について話し合いをしたり、チームスポーツで身体を動かしたりなど、多くの人と関わる機会があった“月曜日”を私は毎週楽しみにしていました。

実習

将来への自覚

薬学部薬学科 青木 久実（桜丘高等学校出身）

昭和大学は医系総合大学であるため、医療人となるために必要なスキルを身に着ける機会が豊富にあります。しかし、通常の授業では得ることのできないものもあります。そうした経験を初年次体験実習で得ることができました。

この初年次体験実習は大きく病院実習、施設実習、学部実習の3つに分かれ、約1か月にわたり行われました。病院実習では病院内の見学を行いました。見学では、外来など普段目にする場所だけでなく、薬剤部、手術室など普段は立ち入ることができない場所まで案内していただきました。また、その場所で働いている方々にお話を伺ったり、質問させていただいたりすることができ、将来、自分になりたい姿を明確にすることができました。施設実習では地域密着型通所介護施設に行き、介助の手伝いをさせていただいたり、高齢者の方とコミュニケーションを取ったりしました。学部実習では地域の薬局に行き、薬局内で薬剤師の方がどのように働いているのか見学させていただいたり、今後薬剤師にどのようなことが求められるのかなど、多くのことを教えていただいたりしました。このようなことから、今後自分が薬剤師となるためにはどのようなことが必要となるのか、現場を通じて理解することができました。

今回の実習では、座学では得ることのできない学びを得ることができ、将来への思いを強くすることができました。また、この学びからこれまで以上に自分が医療人となるのだという自覚を持つことができました。



部活動

富士吉田での部活動について

医学部医学科 阿部 正（関東学院高等学校出身）

富士吉田キャンパスにはグラウンドをはじめ、体育館やプール、野球場、そして馬術練習場があります。この素晴らしい環境を平日は1年生だけで占有することができ、同じ趣味を持つ仲間たちが集まることで富士吉田の部活動が成り立っています。富士吉田の部活動は基本的に1年生だけで構成されているので、好きな活動へ気軽に参加できることが最大の魅力です。

実際に私は野球、バスケットボール、バレーボール、バドミントン、アカペラ、軽音楽、馬術部に参加し、平日は毎日のように何かしらの活動に参加していました。バスケットは未経験でしたが寮の部屋メン*に誘われて参加しましたし、アカペラや軽音楽も興味があったので勢いで入部し、ウィンターパーティーではみんなの前で演奏もしました。また、ここできた仲間はかけがえのない存在であり、富士吉田での生活が終わった後も一緒にディズニーランドへ行ったり、スキー、スノーボードへ行ったりと楽しい時間を共に過ごしています。

さて、ここまで読んでくださった方の中には「馬術!？」と思われる方がいらっしゃるかもしれません。そう、富士吉田には馬がいます。今まで馬に触ったことのなかった1年生がここで馬と触れ合い、世話をして、カッコよく障害物を飛越すようになります。青春の1ページに馬との生活を添えてみるというのはいかがでしょうか？馬に興味を持ったみなさんとお会いできる日を楽しみにしています。

*部屋メン：寮の同室メンバーの通称



寮生活について

全寮制という貴重な体験

保健医療学部看護学科 神戸 志織（沼津市立沼津高等学校出身）

昭和大学では、初年次が全寮制となっています。入学が決まった当時、同じ高校の出身者がいない中で、初めての場所に一歩足を踏み入れることが不安でしかたありませんでした。そのような学生も少なくはないでしょう。しかし、1年間の富士吉田での寮生活を終えた今、振り返ると今後の人生で二度と経験をする事ができない、また他大学では経験することができない、貴重な体験を得ることができたと感じています。

寮の部屋割りは、4学部がなるべく重ならないように構成されています。学部が異なることで見える多角的な視点が育成され、同学部以外の友達を作るきっかけにもなります。授業も学部別の授業だけでなく、4学部合同の授業も組まれています。寮生活だけでなく授業の場においても他学部と関わる事ができ、自分の所属学部の知識だけでなく他学部の知識にも触れることができます。放課後は、4学部合同でサークル活動が活発に行われており、好きなことを通して、多くの人と関係を築くことができます。また、富士吉田キャンパスには自然教育園があり、定期的にイベントが行われます。例えばヨガ体操、コーヒー作り、サツマイモ堀り体験などです。また、学生が主体となって、前期には寮祭、後期にはウィンターパーティーが開催されます。授業などの学校生活だけでなく、休日やイベントを通して、学部を越えた多くの人と関わる事ができます。初年次からこうした経験ができることは、昭和大学の魅力の一つではないでしょうか。

チーム医療や多職種連携といわれている現在の医療現場において必要とされる他の専門職への理解とコミュニケーション能力を、この1年間の寮生活を通して十分に身につけることができます。寮生活を通して学部を越えてきた仲間は、今後授業や実習などで助け合う大事な仲間となり、一生付き合っていくことでしょう。そんな仲間と楽しい思い出を作ってみませんか？



コンパ

寮生活で得たかけがえのない仲間

薬学部薬学科 板垣 杏果（田園調布雙葉高等学校出身）

初めは不安だった自然豊かな富士山の麓での8ヶ月間の寮生活ですが、完全退寮のときには退寮することが惜しいくらいに楽しく充実した時間となりました。それは、同じ志をもち、共に生活する中で協力し合い、相談し合える素敵な仲間を持つことができたからだと思います。そのような仲間を持つきっかけとなったのがコンパの存在です。



コンパは一人の指導担任のもと、男子女子混合の約20人で構成されるグループです。一緒にBBQや花火をしたり、休日には一緒にご飯を食べに行ったりしながら学部や性別を超えて仲を深めることができ

ます。寮内の部屋が隣同士であるため、夜が更けるまでお菓子を食べながらおしゃべりをするなど、寮ならではの思い出もたくさんできました。特に仲が深まる機会となったのは初夏に開催される寮祭です。みんなでデザインを考え制作したTシャツを着て焼きそばの屋台を出しました。寮祭は学生主体で行われるため、材料の買い出し、調理、会計まで全て自分たちで行いました。焼きそばを無事完売させることができた

ときには大きな達成感とともに、コンパの仲間もそれまでよりもさらに深まったように感じました。

この寮生活で得た仲間は、卒業してからも、実際の医療現場でチーム医療を担うようになるその時まで続く一生ものであると確信しています。

このような出会いがあったことに対して、心より感謝申し上げます。これから寮生活が始まる皆さんも素敵な出会いに恵まれ、かけがえのない有意義な一年になりますよう願っています。



イベント(ウィンターパーティー)

富士吉田生活の“エンドロール”

医学部医学科 吉澤 宏輝（世田谷学園高等学校出身）

若葉色だった富士山が白いベールに包まれた頃、富士吉田での生活は終わりを迎え始めていました。充実した富士吉田での日々を思い返していくと、寮祭や初年次体験実習などの行事はもちろん自然教育園でのイベントや日々の何気ない生活でのあれこれなど、数限りないたくさんの記憶が蘇ってきます。

そんなまさに“エンドロール”にふさわしい最後となってほしいという願いを込めて「Endrollは終わらない」というテーマのもと、ウィンターパーティーが開催されました。

今回のウィンターパーティーでは、寮祭(6月開催)では実施されなかったドッジボール大会やキャンプファイヤーの火を利用して焼き芋を作り皆で食べるイベントを実施しました。ライブステージでは、寮祭の時よりも多くの団体が参加し、ダンスやバンド、DJなどそれぞれの魅力を前面に出し、盛大な盛り上がりを見せました。また、前夜祭と並行して開催されたイルミネーション点灯式では、スペシャルゲストからプレゼントが配布され、学生がイルミネーションの一部に装飾を施しました。

無事ウィンターパーティーを終えることができましたが、先生方や事務課の方々、寮監の方々や食堂・ボイラーの方々など多くの“人生の先輩”方の最大限のサポートがあってこそ成功したウィンターパーティーでした。

後輩のみなさんは、さらに素晴らしいものになるようサポートしてくださる方々に感謝の気持ちを伝え、新たなウィンターパーティーを作りあげてください。